稲作

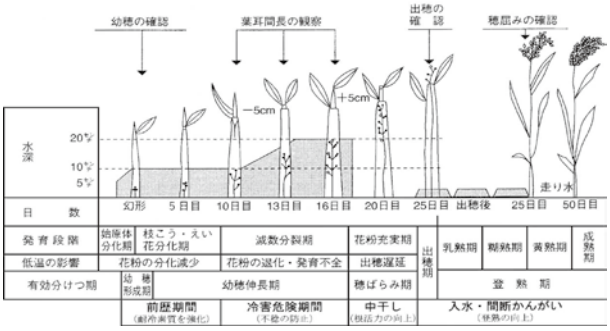
営農情報

幼穂形成期以降の水管理

①．中干しは、幼穂形成期前までに終了してください。そのあとは、間断かん水（カドミウム含有米の発生が懸念される地域は湛水管理）処理を心掛けてください。

②．高温時やフェーン現象時には、湛水処理や水の入れ替えによって、根の活力維持に努めてください。

③．減数分裂期から穂ばらみ期にかけて、減数分裂盛期（葉耳間長０cm、出穂10日前頃）を最大危険期とし、日平均気温20℃（最低気温17℃）以下の日が続き、日照時間の少ない場合は、障害不稔が発生する恐れがあります。その場合の対策として、深水処理（15cm以上）を行いましょう。あらかじめ低温が予想される場合は、幼穂形成期から10日間程度、水深を10cm程度に保つ処理を行いましょう。



※カドミウム含有米の発生が懸念される地域では、出穂前後３週間（７月15日頃～８月25日頃）は、湛水管理（田面を空気に触れさせない）を厳守して、カドミウムの吸収を抑制してください。

主要病害虫の発生予察と防除対策

発生予察情報第３号（H27年６月25日県病害虫防除所発表）		
病害虫名	発生時期・感染時期	発生量・感染量
葉いもち	平年並み	やや多い
紋枯病	やや早い	多い
稲こうじ病	やや早い	やや少ない
斑点米カメムシ類 アカスジカスミカメ アカヒゲホソミドリカスミカメ	 早い 早い	 やや多い 平年並み
フタオビコヤガ	平年並み	少ない

－葉いもち病－

本田や畦畔に放置された余り苗は葉いもちの伝染源となるため、余り苗を放置している場合は直ちに処分し、葉いもちの圃場検診を実施してください。

－紋枯病－

前年多発した圃場では、出穂直前を基本に、薬剤が株元まで到達するよう防除してください。なお、育苗箱に「嵐剤」を使用した場合は、紋枯病防除を兼ねます。

－稲こうじ病－

前年多発した圃場では、出穂20～10日前に必ず防除します。銅剤を使用する場合は、高温時の薬害を避けるために夕方の涼しい時に防除してください。

－斑点米カメムシ類－

農道や畦畔、休耕田等のイネか雑草で増殖します。稲の出穂期10～15日前までに畦畔や農道の草刈りを継続して斑点米カメムシ類の発生源と密度低下を図りましょう。

－フタオビコヤガ－

葉色の濃い圃場や山沿いの圃場で集中加害を受ける場合があります。上位３葉の食害が多くみられる場合は、防除に努めましょう。

今月のあなたの運勢（2015年７月）

牡羊座（3・21～4・19） おおらかな気持ちになれる月。未体験のことにも意欲的に挑戦できそう。レジャーに出掛けるなら遠出につきあり